

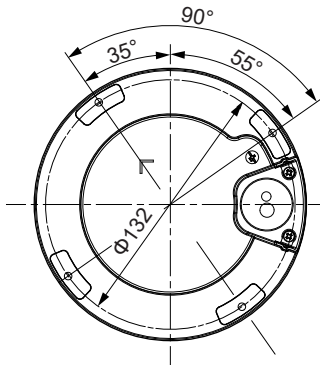
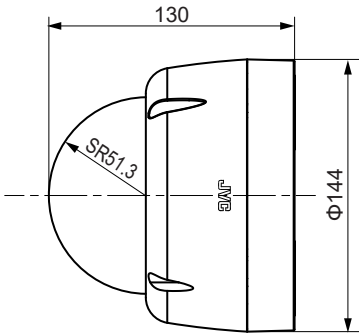
## 機種名 VN-H268VPR

表記なき単位: mm

### 寸法図

- ・パンの可動範囲: ±180°
- ・チルトの可動範囲: 10° ~ 90° (底面に対し垂直となる方向が90°)
- ・ローテーション範囲: ±95°
- ・ケーブル長(底面より): 約 350 mm

### 規格



本機質量	約 1.4 kg
------	----------

### 使用材料

取付方法	天井/壁付け
取付ねじ	ステンレス製ねじ M4 x 12 mm 以上
使用数	4本

### 施工例

施工手順(注意事項 5.6.7.参照)

1. アンカー(めねじタイプ)を使用して取り付ける場合
  - 1) テンプレート(付属)を使用し、アンカーに対応した孔を3箇所あけ、アンカーを挿入する。
  - 2) 必要に応じて、ケーブル通線孔をテンプレート(付属)を使用しあける。

### 注意事項

- ※1. 風速60 m/s 対応。
- ※2. 設置環境、施工材料により最適な固定方法を選択すること。
- ※3. 取付ねじの長さは参考値。
- ※4. アンカー(おねじタイプ)は使用不可。

1. 壁面強度は本機の総質量の10倍以上の強度を確保出来ること。強度が取れない場合は必ず補強を施し、強度を確保すること。
2. 取付けねじの強度は、1本で総質量の10倍に耐えられる材質(ステンレス製)を選択すること。
3. ケーブル類は、確実に防水処理を施すこと。(図2)  
配線部分(図2点線部)は、絶縁テープにて絶縁処理を行うとともに、防水処理を確実にすること。(防水対応ではありません。) また、ケーブル接続部が雨水にて水没しないよう考慮し施工すること。
4. 落下防止ワイヤー(付属していません。ステンレスワイヤー使用)は一方を壁や天井に、もう一方をカメラ本体の落下防止ワイヤー取付ねじに接続すること。(図3)  
落下を防止するため、本機の質量に十分耐えられる強度のある落下防止ワイヤーで天井スラブなどに取り付けること。また、落下防止ワイヤーは天井構造物と絶縁できるように接続すること。
5. ケーブル引き出し口を上に向け施工しないこと。
6. ケーブル引き出し口を横にした場合は、ケーブルをU字にたわませるなどケーブルを伝って雨水が入らないよう施工すること。
7. カメラ本体は、本書および取扱説明書に定める施工が正しく行われ適切な防水処理が施された場合にのみ防水(IP66)性能が維持できます。

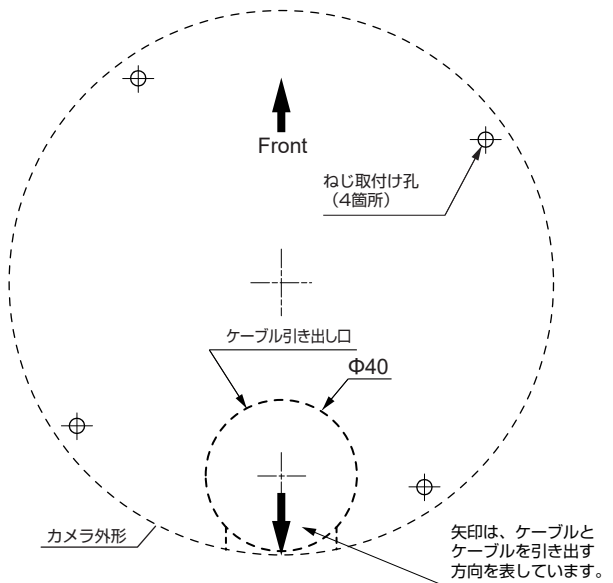


図1 テンプレート図

2. 板金に取り付ける場合
  - 1) テンプレート(付属)を使用し、取付けねじ(M4)に対応した孔をあけ、M4用の平座金、ばね座金とナットにて確実に固定する。
  - 2) ケーブルの引き回しは、ケーブル引き出し口を使用すること。(本機にケーブル通線孔は絶対にあけないでください。水漏れの原因となる場合があります。)

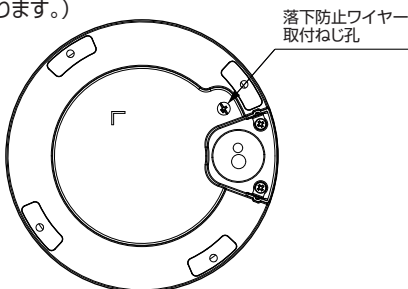


図3 落下防止ワイヤー

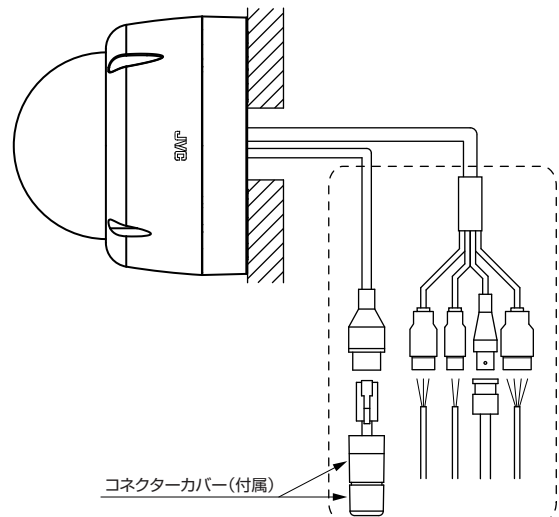
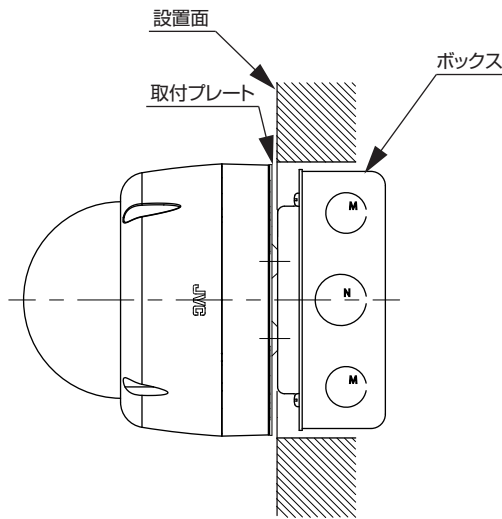


図2 ケーブルの絶縁・防水処理

機種名 VN-H268VPR

表記なき単位: mm

**施工例3**



**使用材料**

取付方法	ボックス
取付ねじ	ステンレス製ねじ (M4X8 mm以上)
使用数	4本

図4 ボックス施工例

施工手順(推奨締め付けトルク: 0.78 N・m(8 kgf・cm))

1. ボックス(付属していません)を使用して取り付ける場合
  - 1) 添付の取付プレートをM4ねじ(付属していません)4本でボックスに取り付ける。
  - 2) カメラを付属のM4ねじ4本で取付プレートに取り付ける。
  - 3) ボックスの外形寸法で壁や天井に孔を開けた場合は、ボックスが見えないよう施工することをお勧めします。

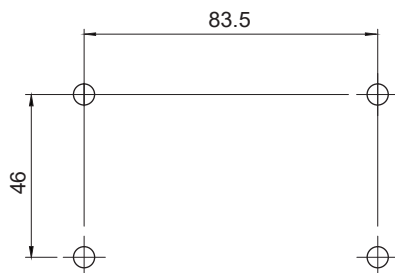


図5 ボックスのカメラ取付部寸法

**注意事項**

1. ケーブル類は、確実に防水処理を施すこと。(図2)  
配線部分(図2点線部)は、絶縁テープにて絶縁処理を行うとともに、防水処理を確実にすること。(防水対応ではありません。)  
また、ケーブル接続部が雨水にて水没しないよう考慮し施工すること。
2. 取付けねじの強度は、1本で総質量の10倍に耐えられる材質(ステンレス製)を選択すること。
3. 落下防止ワイヤー(付属していません。ステンレスワイヤー使用)は一方を壁や天井に、もう一方をカメラ本体の落下防止ワイヤー取付ねじに接続すること。(図3)  
落下を防止するため、本機の質量に十分耐えられる強度のある落下防止ワイヤーで天井スラブなどに取り付けること。  
また、落下防止ワイヤーは天井構造物と絶縁できるように接続すること。
4. ケーブル引き出し口を上に向け施工しないこと。
5. ケーブル引き出し口を横にした場合は、ケーブルをU字にたわませるなどケーブルを伝って雨水が入らないよう施工すること。
6. ボックスに防水処理を施すこと。  
防水処理をしない場合は、ボックスに水抜き用の孔を設け外部に雨水が排水されるよう考慮すること。
7. カメラ本体は、本書および取扱説明書に定める施工が正しく行われ適切な防水処理が施された場合にのみ防水(IP66)性能が維持できます。

Drawing No.	REVI	Drawing Name	Sheet
YP1-060-D12-01	01	耐衝撃ドーム型HDネットワークカメラ施工基準書	Sheet 3/3 <sub>△</sub>

機種名 VN-H268VPR

表記なき単位: mm

添付の取付プレート 寸法図

